

岡本恵也教授退職記念号に寄せて

学 長 幸 田 亮 一

岡本先生は、1967年九州大学大学院経済学研究科修士課程を修了後、引き続き同博士課程に進学されました。そして1970年に同課程で単位取得満期退学後、ただちに富山大学経営短期大学部講師として着任され、翌年には助教授に昇格され1980年3月までお勤めになり、同年4月に熊本大学教育学部助教授として着任されました。それから4年後の1984年4月に熊本商科大学経済学部教授として本学にお見えになり、2014年7月に学長ご退任とともに本学をお辞めになるまで30年以上にわたって、海外事情研究所長や経済学部長、さらに学長として本学発展のために貢献されてきました。

岡本先生は、1990年の経済学部国際経済学科の設置にご尽力され、ご自身も韓国大田大学校に交換留学されるなど、とくに国際交流の分野で本学の発展に多大のご貢献を頂きました。先生のご専門は金融論、証券経済論であり、1970年の「商業信用と産業信用 - 『宇野理論』における『商業信用論』批判」論文より始まり、着実に研究成果を積み上げられ、2000年代に入ってから、ベンチャーキャピタルやカードの登場と関連づけつつ銀行の役割変化、さらにはグローバリゼーション下のドル本位制の研究へと研究テーマを展開されてきました。

また、1996年7月から2000年6月まで、第35期・第36期の熊本県地方労働委員会公益委員として地域の労働問題の調停に取り組まれ、さらに2003年10月から2007年3月まで熊本市都市計画審議会委員として熊本市の発展にも貢献されています。

岡本先生と私の関係について触れると、1996年に私が本学に赴任した時に与えられた研究室は12号館5階の岡本先生の隣の研究室であり、時々立ち話をするようになったのが始まりです。いちど、岡本先生や嵯峨一郎先生などといっしょに県立劇場レストランの外の芝生のテーブルでビールをいっしょに飲んで歓談した情景が鮮明な形で記憶に残っています。その当時から、今日まで岡本先生は頭の切れる人であり、親切な人であるというのが今に至るまで変わらない印象です。

岡本先生の後任として2014年8月より私は学長に就任したが、その後も時々、会食など同席させて頂き、その都度、旺盛な好奇心と明晰な分析力に感心させられています。先日も、先生の教え子で、北京の対外経済貿易大副教授の西村勇作さん、和服の普及に努めている茨木國夫さんとの夕食の場に招かれ、たいへん楽しいひと時を過ごさせて頂きました。

岡本先生の今後のご健勝とご活躍を心より願ってご挨拶に代えさせていただきます。